

在宅医療にたいする 意識調査

医療福祉連携士の会

- 田原 久美子(脳神経センター大田記念病院)
吉村 純彦(十和田市立中央病院)
山田 明美(佐久総合病院)
小林 智恵子(東信地区看護連携協議会,
佐久市立国保浅間総合病院)
吉田 秀一(東北厚生年金病院)

はじめに

- 超高齢化率が進展し、病とともにどこで療養するかは喫緊の課題である。病院ではなく、住み慣れた生活の場である自宅(居宅含)での療養を希望する人が多いにも関わらず、実際には病院で療養し、看取りを迎える人が多い。
- 医療福祉連携士講習会修了生で組織した“医療福祉連携士の会”では、医療福祉連携士の取り組みについて検討するために“おうちに帰ろう”をテーマにシンポジウムを主催した。

医療マネジメント学会認定 『医療福祉連携士』の現状

※医療マネジメント学会主催の「医療福祉連携講習会」を受講後、試験にて認定

第1期生 2010年度	102名受講(看護師45.6%、社会福祉士20.4%、事務職14.6%、薬剤師及び医療情報管理士2.9%、医師1.9%等) 認定試験合格:87名 認定登録 :83名
第2期生 2011年度	78名受講(第2期73名、第1期5名(2カ年)) 認定試験合格:60名 認定登録 :58名



目的

- 自宅(居宅を含む)での療養を希望する人々にたいし、医療者は在宅医療に関わる不安や現実を含めて、在宅療養にかかわる様々な問題をマネジメントすることが必要である。
- マネジメントする側の医療者自身が、在宅医療にたいしどのような期待や不安を抱いているのかをアンケートで抽出することを目的とした。

方法

“おうちへ帰ろう”

第一部:「医者として」上映会

第二部:シンポジウム“おうちに帰ろう”

～医療福祉連携士の取り組み～

平成24年6月18日 於 長野県佐久市

主催:医療福祉連携士の会

共済:東信地区看護連携協議会

参加者のうち医療従事者113名にたいし、**自記式無記名アンケート**による意識調査を施行した。



対象者の属性

- 対象者 113名 回収41名 (36%)
- 性別:男 8名 女 33名
- 職業:医師 2名 看護師 30名 その他 9名
- 年齢:50歳未満 15名 50~65歳未満 26名
65歳以上 0名
- 家族等の介護経験:有群 19名 無群 22名

質問 1

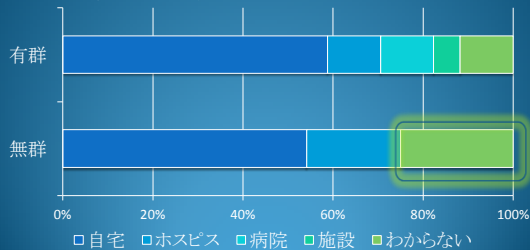
- あなたが悪性腫瘍で長く生きられないであろうと宣告された場合や、介護が必要になった場合の療養場所はどこを希望されますか？

- 自宅
- ホスピス
- 病院
- 老人ホーム等の施設
- わからない



質問 1

- あなたが悪性腫瘍で長く生きられないであろうと宣告された場合や、介護が必要になった場合の療養場所はどこを希望されますか？



質問 2

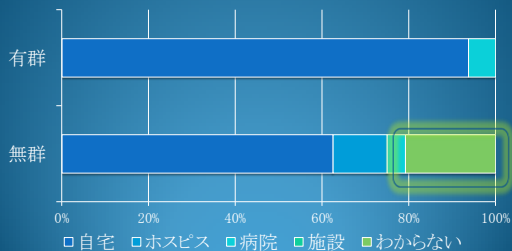
- ご家族が悪性腫瘍で長く生きられないであろうと宣告された場合や、介護が必要になった場合の療養場所はどこを希望されますか？

- 自宅
- ホスピス
- 病院
- 老人ホーム等の施設
- わからない



質問 2

- ご家族が悪性腫瘍で長く生きられないであろうと宣告された場合や、介護が必要になった場合の療養場所はどこを希望されますか？



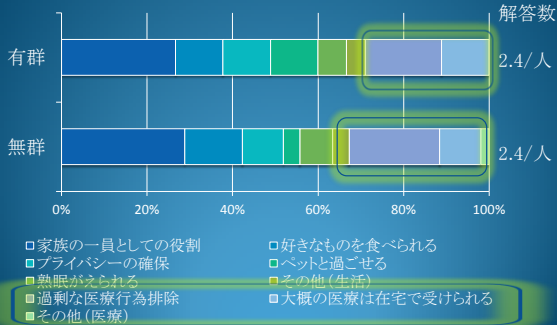
質問 3

- 在宅医療に関する期待は何ですか？(複数回答可)

- 家族の一員としての役割
- 好きなものを食べられる
- プライバシーの確保
- ペットと過ごせる
- 熟眠がえられる
- 過剰な医療行為排除
- 大概の医療行為は在宅で受けられる
- その他

質問 3

- 在宅医療に関する**期待**は何ですか？(複数回答可)



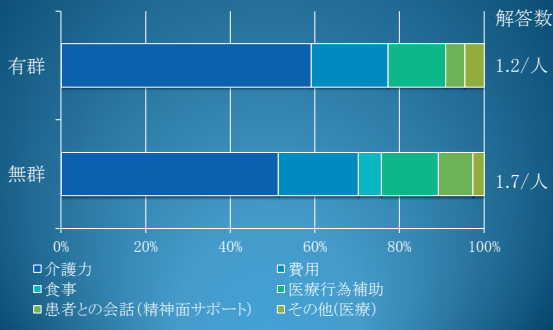
質問 4

- 在宅医療に関する**不安**は何ですか？(複数回答可)

- 介護力
- 費用
- 食事
- 医療行為補助
- 患者との会話(精神面サポート)
- その他

質問 4

- 在宅医療に関する**不安**は何ですか？(複数回答可)



結果

- 希望する**療養場所**は？
有群に比べ、無群では「わからない」の割合が多かった
- 在宅療養への**期待**は？
有群、無群とも一人当たりの回答数は同じだった
有群に比べ、無群では「医療」に関する割合がやや多かった
- 在宅療養の**不安**は？
有群に比べ、無群では一人あたりの回答数が多かった
有群に比べ、無群では回答が多岐にわたっていた

考察

- 無群では、有群に比べ、「わからない」という回答や、回答にばらつきがあり、在宅医療にたいする**イメージ**が形成されていない可能性が示唆された。
- 無群では、有群に比べ、在宅医療に関する不安が多く、**経験が無い**ために不安が増長されている可能性が示唆された。

結語

- 家族等の介護経験の有無で、療養場所の希望や在宅医療にたいする不安に差があった。

ご清聴ありがとうございました



発表予定だった吉村先生

会長の吉田先生



大久保先生・若月先生



2012年度『医療福祉連携講習会』開催中
第3期生医療福祉連携士募集中です
ぜひ2013年度の医療福祉連携講習会を受講ください